

# 令和5年度第3回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

## 1 日 時

令和6年1月31日（木） 9時30分～

## 2 開催場所

千葉市役所 5階 L会議室501

## 3 出席者

（委員）神野委員長、種谷副委員長、椎原委員、関委員、瀬崎委員、高梨委員  
（事務局）小名木生活文化スポーツ部長、市倉文化振興課長、川口文化振興課長補佐、  
安藤主任主事、野口主事

## 4 議 題

- （1）第3次千葉市文化芸術振興計画素案について
- （2）第3次千葉市文化芸術振興計画（案）パブリックコメント手続きについて
- （3）令和6年度千葉市芸術文化振興事業補助金について【非公開】

## 5 議事の概要

- （1）第3次千葉市文化芸術振興計画素案について  
第3次千葉市文化芸術振興計画素案について意見交換を行った。
- （2）第3次千葉市文化芸術振興計画（案）パブリックコメント手続きについて  
パブリックコメント手続きについてと、手続き後のスケジュールについて説明を行った。
- （3）令和6年度千葉市芸術文化振興事業補助金について【非公開】  
千葉市芸術文化振興事業補助金の審査を行った。

## 6 会議経過

<事務局説明>

【神野委員長】

今回の議題の主題は第4章以降であり、それ以前に関しては、前回までの振興会議の中で議論していると思います。また、今回理念について括り方を大きく変えたということがあり

ます。

まず、この先の審議に関してはそれぞれの項目ごとに見ながら、御意見をいただきたい。

前回までの理念は、本市ならではの文化芸術を通じて創造性・主体性が育まれるという内容でしたが、もう少し理念としてシンプルにしたというところがあります。

22 ページ記載の通り、人づくり、まちづくりの先に未来づくりがあるという構造となります。まずこの部分について質問や意見を伺いたい。

**【椎原委員】**

全体を見て、これは文化芸術にあふれる創造性豊かな千葉市というのが前面に出ているような印象を受けるけれども「創造性」という言葉を安売りしているように感じます。実際、この創造性とは何なのでしょう。

日常的に創造性という言葉を使っていますが、いわゆる私たち美学の領域でいう創造性や、元々文化芸術基本法の中に創造性という言葉が使われていることもあり、法律用語として一般的に使われていることもあるが、やたら創造という言葉が使用されているように感じます。

創造性とは何かということをまず認識した方がよいのではないかと。

この素案にコンサルもかかわっているのであればどういう意識の中で創造性という言葉を使っているのかというのが非常に気になりました。

**【事務局】**

この部分については、私どもで考えたものです。椎原委員がおっしゃるように創造性という部分をきっちり定義せずに使っていた部分は確かにあるかもしれませんが。

**【椎原委員】**

例えばクリエイティビティーとか、創造都市論で文化産業とかかかわってくるとそのように使われることもあれば、新しい価値のあるものをつくるという意味での創造もあります。

全ての市民が芸術家のように創造力があるということではないかもしれないが、新しい価値をつくっていくというようなものなのかもしれない。そのあたりのところが曖昧では伝わらないのではないかと考えました。

これは先ほど固有価値という言葉が出てきたが、人間に備わっている固有の価値であり、経済学者のラスキンなどが固有価値論というのを展開したことをベースにしたものになります。文化経済学などで、使われている用語がつながってくるのではないのでしょうか。

それはいわゆる経済的・功利主義的なものとは違うという文脈でつくられてきた言葉でもあり、現在の情報化社会の中において、この創造というのはどういう意味を持つのかというのは改めて考えないといけない時期に来ていると思います。

最近港区が盛んに新しい施設を作っています。共生社会で外国人も多いこともあり、色々な意味での共生という言葉を使いながら共生社会とクリエイティビティーの関係性についてシンポジウムを開くなどして、市民に対する喚起を促すことも行っています。

それは新しい施設ができるから可能なことなのかもしれないが、いきなりパブリックコ

メントして、市民から意見を出してもらおうとしても伝わりづらいのではないかと思います。

【神野委員長】

これについて事務局から意見はありますか。

【事務局】

確かに文化芸術基本法の中に創造性という言葉があることでそれを根拠に使っていたというところもありますが、本市において文化芸術による創造性とは何かということをつまみきれなかったと思います。

この創造性という言葉を使うにあたり、その背景と意図するものは何かというのを考えたうえで改めて言葉の整理ができればと思います。

【神野委員長】

どこかに千葉市における創造性の考え方を取り入れる、というのが見えるということが必要かと思う。私としてはそれで対応できると考えています。

椎原委員がおっしゃるとおり色々な定義はあり、椎原委員も今パブコメ等で指摘されてしまうのではないかとのご懸念をお話いただいたのだと思います。

同時に港区の話も出ていたが、施設があってそれを推進するという形が望ましいです。具体性を持ったことになると思う。

これは、千葉市で行えていないところになりますので、ある種、今回から作っていくということでもあるのかなと思います。

今後は文化芸術に予算も割いて推進する意思があるというふうに事務局の方からは伺っているところもあるので、言葉として乱発されていると感じるところもあるが、その裏にはこれまで実施していなかったことを実行に移していく思いがあらわれていると理解しています。「創造性とは」ということの定義について、それぞれ使っている箇所の意味合いを拾いながら整理するというところを行い、項目として入れていくということでしょうか。

【事務局】

承知いたしました。そのようにいたします。

【神野委員長】

次は基本目標それぞれの内容について見ていきます。基本目標 1 は多彩な文化芸術に触れる機会の拡充という項目になっており、要はいろいろなものに触れられるということがとても大事ということになります。触れるためのアプローチということが施策として(1)、(2)、(3)の中に書かれています。

最初にはさまざまな文化芸術に触れる機会を提供することが書かれており、これは身近な体験を提供できるようにしたいということと考えられます。

(2)の部分に関していうと、これは文化施設の職員や市以外のさまざまな機関との連携によって多様性を実現したいという意図であると思います。

(3)に関して触れる機会を拡充する事業について市民が情報に触れるということが可能に

なる状況を生み出したいという意図になると思います。

これについて、ご質問やご意見があったら伺いたい。

**【椎原委員】**

気になった点は大学などとの連携という箇所です。「などの」の中身がもう少しあってもいいのではないかと思います。

例えば、NPO や文化団体がありますし、連携先が大学しかないのかと感じられてしまう。

**【神野委員長】**

実は事前に内容の相談を受けた際、この項目に関して今椎原委員がおっしゃるような指摘をしました。

事務局の方はどこまで書くのか等いろいろ検討がされた中で、現在の抜いた案が出てきました。抜かすのではなくやはり連携は重要ということで入れたが、行政的な発想ではありますが「等」と書けば拾えるという説明を受けました。

椎原委員がおっしゃるとおり NPO 等も当然意識には入っているが、現実には連携ができていりもしくは可能性があるかと考えると、具体的に書けることが大学しかなかったと聞いています。

NPO もそこまで文化芸術関係は盛んなわけではないので、そのような背景があります。あとは事務局の方からご説明をお願いします。

**【椎原委員】**

それはいま文化施設だけでなく、NPO は多分ソーシャルインクルージョン的というと、福祉分野で多く組織があるはずで、NPO の事業者には、文化の面は弱くても福祉の面でそれなりの活動をしているのであれば、そこに文化芸術が入る余地がないことはよくないと思います。

これが昨今の法律改正のところで言われているところでもありますので、社会包摂を考えていったら積極的に NPO を書くことが必要であると思います。

**【事務局】**

委員長のお話のとおり、大学等でまとめてしまっているところもあります。

確かにこの文化芸術の質を高めるという話も、質を高めるというのもまた何なのかというところもありますので、その他分野で本格的に活動している方々と文化芸術がまた結びつくことで、非常に質の高い文化芸術活動が生まれて、それを市民の方々が享受する機会を提供できるというのが非常に重要なことと考えてますので、この部分も含めて表現を検討したいと思います。

**【神野委員長】**

それでは、その方向で進めてください。基本目標 1 についてほかに意見はありますか。

会議で毎回話題になっていた (3) の情報収集と発信のところなどでありますでしょうか。この内容は市および市の施設の事業を発信するというにとどまらず、市で活動したことがあるアーティストなども含みます。

例えば、千葉市美術館であれば、先日は三沢厚彦さんの展覧会を行っていました。あの展覧会を見て三沢さんに関心を持った人がその後、三沢さんがどこか展覧会をやるとか、そういう情報が千葉市のどういうメディアかは具体的に書かれていないが、市民に届くことも含めた幅広い情報収集と積極的なSNS等の活用を通じて市民の方に聞いたことや見たことがあるという人の情報が入るようなところまで広げるべきではないかという考え方です。

よって、市内で行われるものだけでなく、発信するというところまで深めて広がりを持たせたいという意図があります。

他には、イメージしやすいところでいうと瀬崎さんや関さん。三条会が公演をするということも、千葉市民には届けたいことであると思います。

ではそれをどこが運営するのかが課題としてあるが、それを市民会館・千葉市美術館をはじめとする文化施設を中心に担っていただけたら、あるいは新しくできる組織の中で集約していくということもあろうかと思えます。

#### 【関委員】

発信に関していうと市が発信をする、それを誰かがまた発信してくれるということがないと結局広がっていかないというのはあると思います。

では例えば今僕がXなどで千葉の文化情報を発信しようと言ったところで、何を発信してよいかかわからないです。他の人が発信できるようにつながっていかないと結局行政がただ発信しているだけになってしまうと思います。

#### 【事務局】

それは恐らく今、市の文化施設や市も皆さんの心をつかむようなことをしてきていないからであると思います。

興味を持たれていないため、いくら発信したところで、その情報を拾おうとも思わないというのもあると考えられます。

まずは市や文化施設で行う事業も今回の計画を機に高めていきたいと思えます。最初は発信しても拾ってもらえないかもしれないが、いずれ拾ってもらえるようにという流れをこの計画を機に作っていきたい思もあります。

#### 【神野委員長】

行政の今までのやり方とはなじまない、非常に個性的、あるいは主観的に何かこういう面白さがあるという切り口で発信するような情報の取りまとめをして発信する、そしてその人にみんなが注目するといったようなイメージでないとおそらくすぐには動かないと思えます。

例えば都内のいろいろな文化施設がPRタイムズなどにお金を払って発信したところで、はっきり言って影響力を持つのはインフルエンサーに限るわけではないが、誰かの面白い、投稿がバズることによって広がりを持っていくということもあるので、そのあたりを戦略的に行うことも必要だろうと思えます。

**【関委員】**

千葉県の方で若手のアーティストフォローアップを行っているようで、その情報を知人が SNS に書いていて、それを見て知りました。千葉県のホームページを見て知ったわけではなくて、知人がその審査員か何か関係していることをしていて発信していたから知ったのではありませんが。

行政ではなく外部の方の SNS から千葉県は今そういうことをやっているということを知り得たという流れで自然に目に入ったので、いい発信になっていたと思う。

**【神野委員長】**

実現するための方策は、今後具体化していくと思うが、関委員の発言にあったような情報の入り方が当たり前になるような状況を作りたいという意図があると思う。

**【椎原委員】**

今 X の話が出ましたけれども、千葉市文化振興財団の X 公式のものがあるって、1221 人のフォロワーがいます。おそらくモデルとなるのは神奈川県でマグネットカルチャーではないでしょうか。その施策の策定の時に私は神奈川県の文化振興会議の委員でした。結びつくという意味でマグネットカルチャー、略してマグカルですが、今 10 年経ってかなり浸透しています。

この範囲の仕事はやはり県の仕事だと思います。民族芸能やお祭りも含めて文化芸術基本法に載っているものすべてが網羅的に、美術館から文化ホールまで、情報発信されるということになるので。

市が単独でやるのであれば振興財団で十分ですが、県と市の関係性の構築によって千葉県でも神奈川県のような「マグカル」ができて千葉市がその中心的な役割を果たすという方向性のようなものがないと、情報発信が市民だよりに載せただけになってしまうのではないのでしょうか。

振興財団の X では振興財団だけのものしか載らないと思います。神奈川県は県の文化課がどんどん集約して X などに情報をあげています。そうすると多様な情報が発信され、平塚の美術館もあれば遺跡の話もあります、ハッシュタグがつけられてたくさんの投稿が出てきています。それをモデルにすればよいのではなんでしょうか。ただ、繰り返しにはなってしまいましたが、それは県の仕事ではないかと感じます。

市の中でマグカルのようなことを実施するのであれば文化振興課の中であらゆる公民館の情報を載せるというような情報発信ということではないのでしょうか。

**【神野委員長】**

県よりも市民に近い千葉市がやるべきことはあるとは思いますが、県がしっかりとした情報発信をすれば、市の情報発信を通して県のことを知る形になるべきだと思います。

千葉県は非常に大きく、私は常磐線文化圏で育ちましたが、常磐線沿線の間が総武線沿線や房総の方に行くということは相当覚悟がなければ行かないです。

よって地域ごとに情報発信をすることが望ましく、関心のある人には情報が届くようにして、まずは千葉市独自の情報発信をどのようにするかが重要であると思います。県庁所在地でもあるので県都の役割分担も大事であると思います。

#### 【高梨委員】

芸術に触れる機会の拡充ということで実際に市の施設ではなく、例えば公園広場・公開空地やマンションの中、商業施設や千葉銀行のホールなどもあります。そういったところの情報発信の展開ができていないと思います。

可能であれば観光という部分で芸術が盛んな街として認知されるといいと思います、回遊できる情報発信をしてもらいたいと思います。

過去同じ日に、ポートアリーナ、千葉駅、美術館、千葉公園等で色々な催しが行われたことがありました。一日で回れるのにその情報が出ていないのはとてももったいないと思います。情報が点在していることがよくないので、発信や支援を中心となって行う、情報をまとめる役割を持つ機関が必要であると思います。

美術館・大学だけではなく、中高の吹奏楽なども考えられますし、経済面では商業施設なども絡んでくると思います。

今後、本当に展開していくのであれば具体策を行う前にその辺りのところを全体で考え、現実的にしてからが望ましいと思います。

#### 【神野委員長】

いろいろな場所で出会う機会ということは基本目標 3 の中で触れられている事項ですが、色々なところで展開されていくと情報の提供の共有は非常に重要になってくると思います。情報をトータルで見えてまとめることが大切であるというのは重要な視点です。

続いて基本目標 2 文化芸術を通して相互理解を深める場の創出に進みます。年齢や性別・趣向・国籍などの属性を問わず、芸術を通して相互理解を深めていくというものです。表には出てこないが震災の時に外国籍の方が非常に苦労したということもあり、相互理解は重要な点であると思います。(1) は多様な立場の人たちを包摂するような視点です。(2) は特に子ども・若者に注力する事業の必要性です。(3) はソフト・ハード両面におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインを積極的に考えていくというものです。

#### 【椎原委員】

根本的なところからお話すると、国の動向の「劇場法」の視点が抜け落ちていると思います。今後 10 年で新しいホールはできるのではなかったでしょうか。できるのであれば既存の市民会館等が抜け落ちているのが大変残念に思います。美術館ありきの施策になっている印象です。劇場法においても劇場はただ貸館であるだけではないということを目指していますので、市民会館等で新たに創造しなければならないと思います。美術館だけではなく文化ホールや市民会館なども記載が必要ではないでしょうか。

#### 【神野委員長】

千葉市には市民会館という劇場がありますが、劇場法の視点が弱く、創造性という観点で

は美術館ありきになっています。新しい施設を作ることについては状況について事務局から説明をお願いします。

**【事務局】**

千葉市内の劇場とよばれるものは市民会館、文化ホールが他に3つあります。市民会館はすでにかなり老朽化しているため再整備の計画を作ろうとしている段階であるが、物価高騰の影響もあり期間が延びています。10年以内にできる見込みが立っていないが、実施はしたいと考えています。

施設を文化施設というくくりで、バリアフリーとか、そういったものは今後整備していくという意味合いで書かせていただいています。文化施設のソフト施策として、劇場としての本来の役割について書かれていなかったところがございます。

**【神野委員長】**

千葉市美術館の項目が具体的に書かれていることに関してはこれまでの実績と今後の期待という理解でよろしいでしょうか。

**【椎原委員】**

様々なホールがあるのになぜ書かないのでしょうか。施設で行われている、文化振興補助金にも該当している市民がかなり積極的に参画して作っている活動などが抜け落ちてしまっています。基本方針の中に「積極的に使用してほしい」という意図をいれてほしいと思います。公民館も含めて。文化施設と言われてしまうとイメージがわきづらいと思います。

劇場法は劇場・音楽堂等を活性化するという非常に重要な法律です。文化施設ではありませんが、劇場と音楽堂というのが明確に人々の心を豊かにするということが文化芸術基本法の下に書かれています。

その場所で、例えば市民がやっているオペラとか、そういうところに創造性があると思います。それを文化施設と一括りで言うてはいけないなと感じます。

劇場法の規定している内容を千葉市が実施できていなかったことはわかりましたが、実際は市民会館等が、自主企画をやるということで頑張って、もしかしたら予算をとろうとしているかもしれないですし、それはやはり劇場・音楽堂等とか能舞台でもよいから、それを明確に記載した方がよいと思います。

**【事務局】**

市が所管しているホールはいくつかありますが、椎原委員がおっしゃるように劇場法を顧みた時に今後どうあるべきかというのをもう一度整理したいと思います。

新しい市民会館に対して市民の方々は大きく期待いただいているところがございます。市民会館の再整備に関わる基本計画というのを以前に作っていて、そちらの方に今後目指すべき市民会館がどういうものかという方向性等を書いていました。新しくできる市民会館が市のホールをけん引していく存在になるので、どのように反映させていくか検討したいと思います。



#### 【関委員】

自分は20歳のころ千葉大学のサークルからずっと演劇をしてきました。他の大都市ではアマチュア劇団というのは必ずあります。千葉市にそれが無いのは、東京が近いことや劇場が少ないなど様々な理由があるかとは思いますが。

ただ、自分が演劇を始めたころから30年経っているが何も変わっていないと感じます。何かやらないと変わらないというのは実感としてあります。気軽に演劇をやれるような環境はなかなかないという実情を踏まえたうえでどのような施策を打っていくかが大事になってくると思います。

#### 【神野委員長】

私も千葉に来て20年ほどになるがなかなか変わらないと感じます。その課題は千葉市も理解はしていると思います。劇場ホールに関しては全国的な課題ではあるが美術館と違って専門職員の配置が法律的に義務付けられていなかったということが弱点であり、千葉市にとってはそれが非常に大きな課題です。今後ホールを新しく整備するという事の中に、集える場所・街に出ていくような場所であることがイメージされてはいますが、そこに手が付けられない状況の中であると思います。その後書かれているネットワークづくりともつながってくる話です。

意見を聞いてきた中で、ホールも持っているのだから課題に含めて触れていく、踏み込んでいかなければいけないと思います。劇場法の理念というのは文化芸術基本法とも密接にかかわっていることから、組込むことは難しいことではないため検討してもらおうとともに、文化施設についての定義の意見は色々な場で行っていくことが必要です。

美術館を所管している教育振興財団は、公民館の指定管理も行っていて、そのような部分が市の外郭団体の強みでもあると思います。指定管理の条件等を設定する時にこの計画が影響力を持って各公民館の中でも振興計画の一部を担うということが不可能ではないし、行うべきであると思います。他に基本計画2について意見はありますか。

#### 【瀬崎委員】

5歳で千葉市に引っ越してきて音楽を本業にするまで育った実感として、どの分野でもそうだと思うが何かに挑戦しようとしたとき、一瞬注目をされる機会があると思いますが、それで終わってしまっている実感がありました。

千葉に住みながら関東を中心に活躍している同業者はたくさんいるにもかかわらず、千葉で音楽活動をする事は盛んではないという状況があります。住まいとしては便利だが活動は地元でできない悲しさがあります。

例えば、ホールに行く機会が義務教育中に数えるほどしかなく、住んでいる人も使う機会がなく、色々な世代が集う音楽ホールというものが持つ役割を果たしていないと思います。

例えば学校の音楽鑑賞会をホールで定期的に行うなど、ピンポイントで老年世代がターゲットにして、ターゲットに合った時間に催しを定期的に行うなど、色々な分野で企画を行う、ひとつの分野でひとつは必ず催しを行うなど、そういったことをルーティーンにして考

える仕組みを作ってってもらえれば住んでいる方も誇りとなると思います。

難しい文章がたくさん書かれているが、もっと具体的に身近に愛される場所になってもらい、楽しい街になっていくために芸術があってほしいと思います。

【神野委員長】

住んでいる人はいても活動がない、というのが千葉市の現状だとすると、もっと様々な文化施設が市民にとっても演者にとっても身近なものであればいいと思います。ホールの活動の見直し、指定管理の内容を反映させることで推進の方向付けができるように思います。

新しいホールにそのような理念を取り入れ、そこに行けば何かに出会える、何かが起こる。市民にとっても演者にとっても身近なものであるという意識でホールが運営されることが求められると思います。

音楽にせよ演劇にせよ、ハイアートとしての位置づけで行政はとらえていますが、その側面はもちろんあるがここで語られているように生活の中にあるもっと身近な機会の提供ができる場所という視点が入ってきたときに、ハード的にもソフト的にも変わっていくべきであるが現状シフトチェンジがうまくいっていないと感じます。

続いて基本目標 3 について、これまでの計画の中にはあまりなかったものであると思います。高い専門性を持って価値のある活動をしているもの、文化芸術の狭い範囲の中で捉えるのではなくさらにいろいろな面に活用することや、期待を込めて千葉市美術館を書きたいということも理解できるかと思います。近年の文化芸術で重視されている、文化芸術と経済の連携についてもこれまではあまり語られていなかったが経済を抜きにしては語れないところもあると思います。4 番目に関してはデジタルアーカイブ。これも国の方針としてあると思います。加曽利貝塚については所管も異なり行政の在り方として複雑にはなるが、文化芸術基本法に含まれる内容であるので、基本目標 3 についてご意見をいただきたい。

【関委員】

実現できればうれしいと感じました。

【神野委員長】

加曽利貝塚には思い入れが強くあるように感じます。かそりーぬはキャラクターとしてはかわいいが、史跡として整備して何が起こるのかということは未知数に感じます。ここで議論する内容ではないとは思いますが。

【椎原委員】

市で一番入っている箱物はおそらくよしもと幕張イオンモール劇場、それから幕張メッセのホールであると思います。その集客をどう考えるかですが、おそらく文化芸術の中に漫才は含まれるのではないのでしょうか。

マジカルミライのイベント等都心からも人が来ますし、経済との連携というところで語るのか、商業的な文化施設で語るのかというところがあります。

たくさんの方が千葉に来て、劇場の漫才で笑って、初音ミク楽しいねと言ってグッズを購入するというのを施策のどこに落とし込むのかという課題はあると思います。

ただ経済の問題だけでは済まないような気がします。個人的に加曽利貝塚には思い入れがあるので頑張ってもらいたいとは思いますが。

**【神野委員長】**

事務局から意見はありますか。

**【事務局】**

椎原委員からあった商業的な文化施設については、持っていない考えでした。マジカルミライなどは名義後援をして積極的に応援している立場でございます。

施策を作る際に、そのイベントが市の文化振興にどういう意義があったかというところまで広げて考えていませんでした。ここに入れるかは別としても、そういったところをどう捉えているかについてはどこかで反映したいと思います。

**【関委員】**

現在行われている木下サーカスは名義後援も入っているが関係しているのでしょうか。

**【瀬崎委員】**

幕張豊砂駅の商業施設では、サーカスを見た人にドリンクなどのサービスをしていました。平日でも人が入っており、こういった連携は芸術と経済の連携だと感じました。

**【事務局】**

事務局から説明したイベント内容はもちろん文化の部分になるが、施設の位置づけとなると市の持ち物ではないものもあるため難しいとは思いますが検討はしたいと思います。

**【神野委員長】**

おそらく市内で行われている経済活動が活発になることで市にお金落ちることを経済としてとらえていると思いますが、よしもとの公演を千葉市が主催事業としてやる必要はないと思います。ただ、行政がよしもと側だけではできないようなことを行政がサポートすることで結果より大きな経済効果をもたらすのであれば検討の余地はあると思います。

市役所との役割分担を整備することが必要にはなってくると思います。杓子定規にハイカルチャーなことだけが文化芸術の範囲だという時代ではないです。

行政がすべてをやるということではなく、民間が得意なことは民間で、ただし行政が支援することでその経済規模が大きくなる、市民がアクセスしやすくなるということであれば市にもメリットがあるので、協力をする。その視点をどこに書くのかということについては考えなければならないが、触れたほうがよいとは思いますが。

**【椎原委員】**

市の施設だけとなってしまうと、例えば県の文化会館との関係性はどうか、市は県の施策に連携するとか、そういうことも書けないのでしょうか。いつまでも役割分担にこだわって立派なものが市内にあるのに、あれは県のものだから関与しないという姿勢でいいのでしょうか。もっと県に歩み寄ってたとえば音楽協会がやる活動などは市の補助金を出さず場合も検討してもいいのではないのでしょうか。借りているからということもあ

るかもしれませんが、それなりの活動をしていると思います。市だから県だからというのでなく、どこかで県に協力する姿勢をみせるということはできないのでしょうか。

#### 【事務局】

これまで現実的に協力できていなかったというところはあるかもしれないが、今後県側からも今、文化会館の大規模改修をしているが、ありがた検討の中で地元自治体と広く連携していきたいというお話もいただいています。取り込み方についてはこののち検討させていただきたい。

#### 【神野委員長】

おそらく全国的に見ても県庁所在地の自治体で最も規模が大きく、政令指定都市として美術館の整備もやるが、二重行政的なことになりやすいことは課題であると思います。

県は全県に責任は負うが、ホールでも美術館でも場所に強く結びついているものに対して、行動していくわけにはいかないです。県都としての千葉市でいうと、千葉県内からわざわざ千葉市には行かないと思います。日本の街の作られ方は東京に向いているため千葉市へのアクセスはよくないと感じます。

役割を明確化させること、やりとりを活発化させることを市から県へ言ってもいいのかもしれませんが。

基本目標 4 へ進みます。瀬崎委員からあったように千葉市にはアーティストが住んでいるが活動の場としては捉えられていない。アーティストが地元に関心を持ってもらい活躍できる場をどう作っていくのが課題であると思います。

また、関委員の指摘に繋がることだが演劇を趣味にしている人が多くいて、プロを支えるファンにもなっていくという構造がある。それが残念ながら千葉では生まれなかった。文化芸術に携わる人材の育成というものもつながってくると思います。ご意見を願います。

#### 【関委員】

スタートアップのような、例えば演劇を始めるとなった時に助成制度があるなど発表や場所の提供ということも、活動している人にとっては大切だが、どうやってスタートアップしていくかということの方が今の千葉市には必要であると感じる。ここでどう始めるかという支援の仕方があるのではないのでしょうか。

この文章の「人材育成」といっても、活動を始めの人がいるのかとなり、文章が弱く感じます。

#### 【神野委員長】

活動が何かあって魅力的に感じられないと人材を育成しても仕方がないし育成されたいと思わないのではないかと、そして場面や活動が展開されていないと感じる。そのためには(1)の文言が足りないというご指摘であると思います。

【椎原委員】(2) にアーティスト・イン・レジデンスの実施が書かれているが、(1) にアーティスト・イン・レジデンスを書いた方がいいと感じます。

助成制度はアーツカウンシルの中で重要な役割なので、アーツカウンシルを作り広く人材育成の場を提供するなどより具体的に書ければよいのではないかと思います。

アーティストだけでなく、マネージャーに対しても支援が必要で、アートマネジメント講座を開いたりしているところもあるので、その点も明記した方がいいと思います。

【神野委員長】

ただいまのご指摘は前項で触れられているものを再掲して、もっと広がりを持たせた方がよいというものであると思います。関委員が話したことに関して、専門的な人材の居る組織としてアーツカウンシルのようなものができれば、そこが展開される場づくり、あるいは参加者の巻き込み方を通じて育成することに繋がっていくと思います。

アーツカウンシルと書くかは別にしても、重点取組の中身とそれがつながるという書き方が必要だというご指摘であると思います。他の意見はどうでしょうか。

私も千葉市周辺のアртиストが集う場所やネットワークをよくできないかと考えているがなかなか難しいです。これはどこが担うべきなのでしょう。大学の研究室には重く、千葉市美術館は現状そういったことは行っていないし、意識もあまりないと感じます。美術館から退職した職員と、そういった場所を作らないかと動いていたこともありましたが。

色々なことを含めて活動の中身そのものを見直して、そういったことも実施していくといいのではないのでしょうか。瀬崎委員、どうでしょうか。

【瀬崎委員】

何かを催したいと思ったときに、同業者だけだと行き詰まってしまうことがあるので、芸術という大枠で集まってアイデアを振り絞って、助け合いながらイベントを作るなど、ざっくばらんに、気さくに交流できるような場所を作ってもらえたら面白いのではないかと思います。

クラシックはクラシック。という枠にすると取り合いではないがお客様も含めて偏ってしまうので、そうではなく活性化する、あたたかい街を作るという意味で自分たちができることとして、専門性を活かすということもそうだが住んでいる人が楽しくなるような、自分が役に立っていると思えるような機会があればうれしいと思います。

【神野委員長】

基本目標1、2で触れられていることも含めて、アーティスト活動をしたい・支えたい・楽しみたいという人たちが緩やかに集まって、情報共有できるような場所があるとよいというご意見ですね。

【瀬崎委員】

ひとりのアーティストが公演をすることになったとき、例えば受付スタッフのボランティアを募るなど、気軽に市民とつながりやすいような仕組みを作ってもらえたらうれしいと思います。

【神野委員長】

ボランティア参加者はお客様としてそれを聴くという享受だけでなく、表現者のそばで

活動をすることで話を聴かせてもらえたりする特別な体験になれば参加のモチベーションにもなる。そういった仕組みづくりがあるとよいと思います。

【瀬崎委員】

神戸の障害児施設にコンサートのついでにお邪魔して演奏していますが、ただ行くだけでなく、音楽がその子たちが輝く場所になって欲しいと思っています。自分の心を解放するというだけでなくみんなで仲良くなる、知り合える機会になったらよいと思います。

障害という面でいうと、日本は隔離して暮らす文化であると思います。ハンディを助けるためにどういう方法をとればいいかを知らないまま大人になっていく傾向があり、溝を作っているいろいろな問題に発展してしまうということを実体験することもありました。

私が神戸でコンサートを行った際、チケットもぎりをその子たちにお願ひした。その子たちの中には音楽を好きな方も多く、踊ることで足の力をつけるとかそういうふうに音楽を楽しんでいます。美術を好む子も多く、コンサートにちなんだTシャツを作成してくれ、売り上げを活動費に充てるということもしました。障害のある子どもたちが施設から出て自分が何かをする機会提供になればと考え、活動をしています。

芸術がそういうつながりを提供できる場になれば。そこを公の方に、つなげていただけるとありがたいと思います。

【神野委員長】

前の施策とも密接にかかわるところだが、重点取組の中でそれぞれ施策を横断的に行って多様な体験が実現できるようなネットワークづくり・仕組みづくりという内容を入れることで対応できるかもしれないと思いました。

非常に重要なことで、立場を超えることを謳ったところで実際に行わなければ、体験を通して実感できなければ、文化芸術を通した未来づくりというのは意味がないと思います。

瀬崎委員の意見は非常に具体的で想像しやすいと思いますので事務局には工夫して拾っていただきたいと思います。

【椎原委員】

基本目標4に「相乗効果により創造性豊かな街が実現される」とありますが、街づくりもかかわってくるとするならば、アーティストの支援・文化芸術に関わる人材育成の中に、さまざまなジャンルを超えた福祉や教育や観光などとの関わりを持たせることができるような人材が必要になると思います。アートマネジメント的なところでも出てきますがもっと社会包摂につながるような人材の育成が必要であると思います。

【神野委員長】

社会包摂が言葉からにじまないとバラバラに見えるというご指摘であると思います。

【椎原委員】

アーティストだけではなく表現者も含めて欲しいと思います。アーティストというと健常者でハイアートを作る人という印象を受けます。また、アーティストだと特殊な能力を持つ人たちを指しているように感じられます。

そうではなく街づくりという観点で言うのであれば、創造性というのは身近なものを自発的に表現できる、自由な表現者であると思います。障害者のアートはそれが一番典型的に表現されていると感じます。

【神野委員長】

アーティストと書くと従来のプロフェッショナルなアーティストに集約されているように感じてしまい、社会包摂と密接にかかわっていないように感じられる。もう少し文言の整理や精査が必要というご意見であると思います。

【高梨委員】

街づくりの話が出てきましたので。山梨館長から美術館を訪れる人が多くなり、それが街づくり・地域の活性化にもつながるような施策の相談をしたいと話がありました。NTTの本部長と一緒に美術館を訪れたが、駅から美術館に行くのに道順が分からずなかなかたどり着けない人もいと伺いました。

そこで三越前に NTT の工事の囲いにサイネージを取り付けることができるかどうか。市や建設会社、美術館などいろいろな条件が整わなければならないと思ったが市が支援してくれて、現在はマップが掲示されて数か月になります。

千葉市美術館の活用、文化施設以外の活用、経済との連携、街づくり、千葉の魅力発信連携していろいろなことが展開できると思います。たまたま何かしたいと話していたが、かわりを持たせる人材育成がどうしても必要になってくると感じました。

施設だけにとらわれず、色々なところとのネットワーク・仕組みづくりが必要ではないかと再確認した次第です。

【神野委員長】

美術館がデジタル資源を持つようになってきていて、これまでは受け身で借りたい人はどうぞという姿勢だったが積極的に提案もできると思います。

例えば相談があったとき別の場所との連携も提案できるような人材や窓口が必要になってくると思います。多面的・多角的な街の中に文化芸術が生きるということが実現されると考えられます。前の項目にもかかわるが人材というところが重要であると思います。

事務局で取りまとめた 4 つの基本目標の中で特に力を入れていきたいところが重点取組にあります。中でも特に文化芸術の推進にかかわる体制の強化ということが強調されています。アーツカウンシルの文言も説明の中では触れられたが、文言そのものは入れてはいません。

基本目標を実現するためにはこれまでの組織や体制では不可能であるため、専門的な組織を作るということになります。この点に意見があれば。

これまでご指摘いただいた点についてどのように工夫していけるか、全体として意味を持つものにしていくということは前提にはありますが、私の捉え方としては、千葉市はこれで覚悟を示すということ。体制を整備して、実施していくつもりがあるということになると思います。ご意見ありますでしょうか。

ご意見がないようですので、パブリックコメント手続きの説明に移ります。

<事務局説明>

【神野委員長】

このパブリックコメント手続き、またスケジュール案についてご意見があれば。

ご意見ないようですので、次の議題に移ります。

公開はここまで